

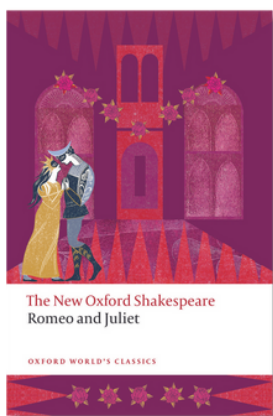
from Oxford World's Classics

シリーズ監修：エマ・スミス（オックスフォード大学教授）

オックスフォード大学出版局では、現存するすべてのシェイクスピア作品の原典にあたって新たに校訂作業を行い、作者判定に関する最新の見解や革新的論考を盛り込んだ『The New Oxford Shakespeare Complete Works: Modern Critical Edition』（新オックスフォード版シェイクスピア全集：現代批評版）を2016年に刊行しています。

2024年春よりOxford World's Classics シリーズ内で展開することになった「The New Oxford Shakespeare」は、この全集で発表した新校訂のテキストを、作品ごとに切り分け提供するものです。手軽で安価なペーパーバックながら、批評的解説や注釈つきで、シェイクスピア研究の最前線に触れることができますようになります。

- 権威あるテキストや詳細な注釈を通して、この分野の第一線の研究者の学識を読者に提供します
- 現代の綴りと句読点の本文に、本文批評に関わるわかりやすい注釈を付加することで、読者の作品への理解を深めます

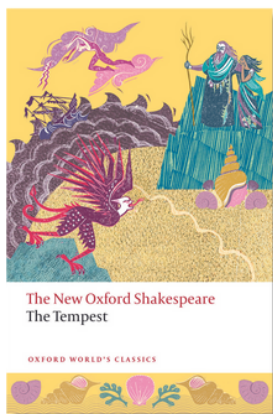


Romeo and Juliet（ロミオとジュリエット）

Edited by Hannah August, Francis X. Connor, and Emma Smith

Paperback | 192 pages | ISBN 9780192866363

- シェイクスピア作品の中でも最もよく知られる、不朽の名作のひとつを斬新な視点から分析します
- 序論では特に本作品の上演史に注目し『ロミオとジュリエット』が若い男女の恋愛悲劇であるとする従来の見方から離れ、新しい解釈を提供しています
- 本作品の中のジェンダー規範や、16世紀以降今日まで、本作の上演に関わったクィア（性的マイノリティ）の歴史を検証した校訂者のオーガストは、この作品が典型的な異性間の「ラブ・ストーリー」であるとの先入観を持って評価することに異議を唱えています

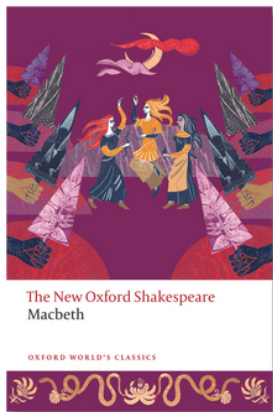


The Tempest（テンペスト）

Edited by Lauren Working, Rory Loughlane, and Emma Smith

Paperback | 176 pages | ISBN 9780192865878

- 植民地主義や植民地抵抗との関係に光を当てるべく、幅広いアプローチから作品を論じています
- シェイクスピア時代の戯曲の世界を再構築し、本作に対する新たな視点を読者に紹介すべく、オブジェクト、手稿、貴重書などを用いて、奥深いコンテキストを提供します
- 本作が執筆されたジャコビアン時代の背景を探りつつ、後の時代の解釈が、ジェンダー、抵抗、幻想などのテーマをどのような形で探求してきたかを検証します



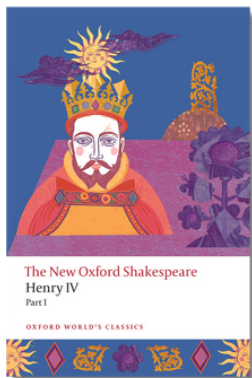
Macbeth（マクベス）

Edited by John Jowett and Emma Smith

Paperback | 160 pages | ISBN 9780192862426

- シェイクスピア作品の中でも最も演劇的で、有名な悲劇の新校訂です
- エマ・スミスによる序論では、舞台設定から上演史、マクベスの最初の独り言から最終幕に至るまで、包括的に作品を評価しています
- スコットランド王ジェームズ6世によるイングランド王継承や火薬陰謀事件など、本作品が執筆された当時の背景に加え、ジェンダー、心理学、表象といった現代的観点からも本作を検討しています

各 税込 1,672円 (本体価格 1,520円 + 税)

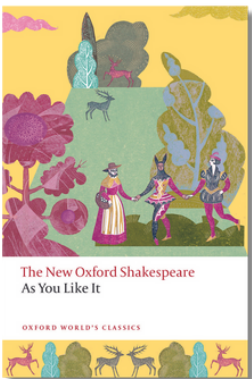


Henry IV: Part I (ヘンリー4世 第1部)

Edited by Indira Ghose, Anna Pruitt, and Emma Smith

Paperback | 192 pages | ISBN 9780192865823

- 序論ではシェイクスピアとマキャヴェッリの最も密接な関わりについて検討し、それがリチャード3世やイアーゴのような悪役よりもハル王子に顕著であることを示唆します
- シェイクスピア批評におけるいわゆる「宗教的転回」について、最新の考察を提供します
- 互いのセリフを言い合うコミカルなコンビとして登場するハルとファルスタッフの劇中喜劇について、綿密な考察をおこなっています



As You Like It (お気に召すまま)

Edited by Todd Borlik, Francis X. Connor, and Emma Smith

Paperback | 192 pages | ISBN 9780192865809

- 序論では、本作の批評と上演史に関する最新の研究結果をテンポよく紹介しています
- 環境原論のテキストとして初期エコクリティシズムの試金石となったこの喜劇を、徹底的に評価検討しています
- 批評的時代研究の視点から、本作と、その象徴的な「人間の七つの時代」のスピーチについて、革新的な再評価をおこなっています

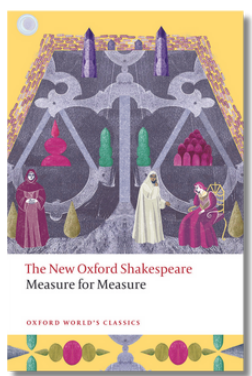


The Merry Wives of Windsor (ウィンザーの陽気な女房たち)

Edited by Callan Davies, Sarah Neville, and Emma Smith

Paperback | 176 pages | ISBN 9780192873576

- 初期の観客にとってシェイクスピアの戯曲がいかに魅力あるもので、本作がレパートリーに含まれるに至ったか背景を説明すべく、新たな史料を活用し、エリザベス朝の演劇事情、ならびに家庭文化に関する最新の研究を盛り込んでいます
- シェイクスピア作品の家庭性に関する先行研究を踏まえ、最近の研究が示唆する人種やセクシュアリティにまで問題を広げて論じています
- シェイクスピアの世界を深く洞察するとともに、その作品が今日の読者、そして演者にとって、柔軟なものであり続けていると指摘します



Measure for Measure (尺には尺を)

Edited by Emma Whipday, Terri Bourus, and Emma Smith

Paperback | 192 pages | ISBN 9780192865861

- 本作をめぐる重要な批評的会話をわかりやすく解説すべく、序論では「問題劇」というジャンルをはじめ「怪物のような身代金」の表現、未婚女性の脆弱性と自由、そして公爵の変装・監視・権威などを取り上げています
- また「MeToo」後の世界の視点から本作を再考することを試みており、この戯曲が性的暴力、腐敗した家父長制権力、女性の言論と沈黙をどのように検証しているかを探ります
- 公爵に結婚を申し込まれたイザベラが沈黙する有名なシーンで、これまで行われてきた演出や演技を通して、本作品に対するさまざまな解釈の在り方を検討します

お問合せ・ご注文は: